

平成 28 年 11 月総務企画委員会 議事概要

H28. 11. 16 作成

日 時：平成 28 年 11 月 15 日（火） 18：05～19:55

会 場：建築士会 サロンスペース

出 席：(担当副会長) 長田 喜樹

(委員 長) 芝 京子 (副委員長) 山成 芳直

(委 員) 伊藤 誠一、加藤 清、加藤 高明、玉野 直美、沼田 有二、八重野みどり、

オブザーバー：須藤専務理事

< 確 認 事 項 >

1 前回(10/18)議事録の確認【資料 1】

- ・異議なく了承

< 協 議 事 項 >

1 1 月 3 0 日開催の賀詞交歓会の内容及び役割について【資料 2】

- ・副会長より、前回委員会での議論を踏まえた実施案・役割分担案のたたき台を説明。招待者のうち新規長寿会員の数は増えそうなこと、参加費を引き上げても概算収支では若干の持ち出しとなることも付言。

(質疑)

① 行事内容等

(委員長)・歓談に移ったあと、来賓や賛助会員参加者の方が会場内で浮いてしまわないよう、適切なアテンド・接遇が必要。

(副委員長)・特に行政庁来賓については、招待状をお渡しする時点で「ぜひ参加賜りたい」との当方の熱意をアピールしておきたい。

(専務理事)・単なる郵送ではなく、持参してお渡しするなどの対応は行っている。遠隔地の場合は、支部にもしかるべき協力をお願いしたい。

(副会長)・今月内に招待状をお渡しするとのことなので、次回委員会までにはどんな方が参加されるか回答で見えてくるだろう。それも踏まえて接遇計画を考えたい。

(委員長)・公式行事の前段にアトラクショナルな催事を加えるのはどうか。過去に事例があったが、会員の中の芸達者な方(声楽・弦楽器等)をお願いするのも一法だ。

(委員)・音楽アトラクションは、せっかく熱心に演奏してもらっているのに、参加者が傾聴せず失礼を生じる懸念がある。

(専務理事)・アトラクションをスケジュールの前段に追加するとすれば、開始時刻を繰り上げることになるが、演目の事前お知らせも含めて周知を徹底しないと人が集まらない恐れがある。1月の会誌配布時のお知らせだけでは不安。12月にも事前告知したいところだが、あと10日以内に企画を確定させられるだろうか。

(副会長)・スケジュールには関ブロ青年協箱根大会のPRを盛り込んであるが、プロモーションビデオの放映も考えているのか。

(委員)・放映は考えていないが、青年委員会委員にはできる限り多数参加してもらい、横断幕掲出でアピールする予定。

・関ブロ関係では、現在、企業協賛のお願いに取り組んでいるところだが、非賛助会員の協賛予定社でも、賀詞交歓会に参加したいとの意向がある。可能か。

(一同)・協賛するというお約束があれば、既存賛助会員様との間に特に不公平が生じるわけでもないの、支障ないのではないか。

(専務理事)・今後の賛助会員加入への期待も含めて問題ないと思う。「関ブロ協賛企業枠」の位置づけで参加していただく。

② 役割分担

- (副会長)・できる限り当委員会委員で運営したいと思うが、行政庁出身委員はご来賓の随行に回る可能性が高いので除外。学校関係委員も授業の都合が心配。
- (委員)・当日は、幸い授業枠がないので有給休暇を取って準備作業に参加したい。
- (副委員長)・前は常任理事3名の方に司会をお願いして頑張っていたが、若干進行に苦労されていた印象があるが。
- (委員)・司会を申し渡されたのが開会直前だったので、準備不足は否めなかった。今回は大丈夫。

2 前期役員選任における問題点の検討【資料3】

- ・専務理事より、今回の役員改選については11/30理事会で選任規程の改正(75歳年齢制限の撤廃)を諮り、現理事・監事に留任・退任の意向確認を行うことでスタートすること、一方前回改選時の世話人会からは、現行規程に係る様々な問題点の指摘があったことを説明。

(質疑)

- (副会長)・前回世話人会の問題点指摘は詳細にわたっており、一つ一つ取ればごもつともな点も多いが、全体としてどのような選任方法に改めるべきか、明確には読み取れない。推測であるが、他団体のように、委員長の選任は士会のような委員会内互選というボトムアップでなく会長・副会長権限の指名、委員の選任は委員長権限で指名といった、トップダウン方式の人事システムをイメージしているのではないか。
- (副委員長)・性悪説に立てば、様々な事態を想定した精密な規程が必要なのだろうが、士会の運営は、基本的には性善説で支障なく進んでおり、権限の乱用とか無秩序な人事といった弊害は出ていないと思う。
- ・前回の役員改選で、具体的な異議や問題点の指摘があったのだろうか。
- (委員長)・支部長が理事を兼務することについては、困難との声があったが。
- (専務理事)・規程上は、「支部長」でなく「支部推薦者」であって、支部長以外の者も就任しており対応不可能ではない。ただ、総会で「75歳年齢制限」に異議の出たことは事実。
- ・いずれにしても朝令暮改は、士会運営上好ましくない。
- (委員)・新制度での選挙等をまだ1回しか実施していない時点での改正が必要か。会員数の減少など時代や環境の変化を見極め、少なくとも2回やってみて見直しの可否を判断した方がよい。

3 会員増強の取組みとしての新規合格者登録時の委員会の対応について【資料4】

- ・専務理事より、今年度合格者向けの登録申請受付スケジュールを説明。当委員会委員等の受付対応支援を要請。

(質疑)

- (副委員長)・今般作成した士会ユニフォームを着用して窓口にはどうか。
- ・1/7の土曜日受付は青年委員会で対応するとのことだが、どのぐらい参加するのか。
- (委員)・5~10名ぐらい。委員は当然若いので、登録事務担当の事務局職員と誤認する申請者もいる。ユニフォーム着用はいい考え。
- (委員長)・完全なシフトを組むことは難しいかもしれないが、対応可能なスケジュールを専務理事に申告してもらい、体制を組んでいきたい。

4 その他

(1) 建築甲子園県大会

- (副委員長)・公開プレゼンなど若い高校生の活躍ぶりが感じられ、有意義な企画だった。成果のとりまとめは？
- (委員)・プレゼンの模様は動画に収録した。目下編集中。

(2) 会長表彰制度の創設

- (委員)・連合会表彰とは別に、本会独自の会員表彰制度が必要と思う。当委員会で議論の口火を切ってほしい。特に、支部を軸足に地道な活動を続けている会員に光をあてたい。
- (副委員長)・「支部活動への貢献」ではやや抽象的。具体的にはどんなイメージか。総務企画委員会で議論する前に、支部長会議で、必要性や被表彰者のイメージを示してもらってはどうか。
- (副委員長)・連合会表彰の枠が毎年3名として、会長表彰は2名ぐらいのイメージか。

- (委員)・毎年コンスタントに表彰対象者が推薦できるのだろうか。
(専務理事)・連合会表彰の対象者選定でも、様々な意見が出て取りまとめに多大な労力を要した。連合会表彰との違いや狙いを明確化しないと、新たな混乱を招く。
(委員)・引き続き、議論していきたい。

<報告事項>

- 1 第356回理事会の予定議題について【資料5】
 - ・専務理事より、項目を説明
- 2 その他
 - ・特になし

<その他>

- 1 次回の委員会について
平成28年12月20日(火)18:00～(予定)
なお、開始時間を1時間繰り上げられないかとの意見あり。